

平成 30 年 6 月 21 日

福生市長 加藤 育男 殿

福生市環境マネジメントシステム目標設定チーム

代表監査員

田中 俊 朗

副代表監査員

石毛 和 夫

藤井 勲

町田 和子

小澤 はる奈

## F-e 数値目標監査報告書

F-e 数値目標の監査結果について、以下のとおり報告いたします。

### 1. 監査日時

平成 30 年 6 月 21 日 (木) 13:30~14:45

### 2. 監査対象

福生市役所

※市有施設におけるエネルギー使用量（電気・都市ガス・LPG・A 重油・軽油）および自動車利用によるエネルギー使用量（ガソリン・軽油・天然ガス）については消防団施設、道路照明を除く。可燃系廃棄物発生量（重さ・400袋）については小中学校を除く。水道水使用量については消防団施設、市営プール、小中学校プールを除く。

### 3. 監査結果

		平成 29 年度 数値目標			達成 状況	部門 評価
		内容	目標値	実績		
環境 配慮	市有施設に おけるエネ ルギー使用 量削減	電気	7,234 千 kWh	7,309 千 kWh	未達成	△
		都市ガス、LPG、 A 重油、軽油	613.4kℓ	643.7kℓ	未達成	
	自動車利用によるエネルギー使用 量削減		36.4kℓ	34.5kℓ	達成	
	市有施設に おける可燃 系廃棄物発 生抑制	重さ	33,975kg	37,578kg	未達成	
		40ℓ袋	2,025 袋	1,991 袋	達成	
	コピー用紙の使用量削減		4,936 千枚	5,065 千枚	未達成	
	市有施設における水道水の使用 量削減		89,033 m <sup>3</sup>	83,966 m <sup>3</sup>	達成	
環境 経営	各課の環境配 慮取組み状況 の点検	環境負荷調査 の実施	4 回	4 回	達成	○
		環境協働報告	1 回	1 回	達成	
	環境配慮に関 する取組み状 況の内部共有	会議録の情報 発信	5 回	5 回	達成	
		情報発信 (F-e ニュースの発 行)	4 回	4 回	達成	
環境 協働	環境配慮取組 み状況の情報 一般公開	広報・HP	4 回	5 回	達成	○
		「福生市の環 境」への掲載	1 回	1 回	達成	
	市民編集員による環境情報の発 信 (かんきょう通信)		2 回	2 回	達成	

※ 評価：○=良好、△=軽微だが改善すべき点あり、×=勧告に値すべき点あり

## 4. 所見

平成 29 年度の数値目標の達成状況について監査した結果、環境配慮の視点の目標は「△（軽微だが改善すべき点あり）」、環境経営および環境協働の視点の目標は「○（良好）」と評価しました。以下に評価所見をまとめます。

### 1. 環境配慮

7つの目標項目のうち、4項目で目標達成に至りませんでした。未達成項目は、電気使用量は1.0%、電気以外のエネルギー使用量は4.9%、可燃系事業廃棄物は10.6%、コピー用紙使用量は2.6%それぞれ目標値から超過しました。昨年9月から防災食育センターが稼働したことに伴い、エネルギー使用量と廃棄物発生量が昨年度より大きく増加しています。

防災食育センター以外でも目標値を大きく超過した施設が複数ありました。中には、特定建築物において換気等の空気環境調整が行われておらず、平成 29 年度に適切な対応を行ったことでエネルギー使用量が増加した施設もありました。そのため、他の施設でも同様の問題がないか、すべての施設で早急に確認していただくことを望みます。

コピー用紙使用量については、一括購入分が昨年度比で約6%の増となりました。特定の部署が突出していたのではなく、多数の部署が少しずつ多めに使用したことが原因です。部署ごとの目標値が明確に設定されていなくても、庁舎全体の目標に各部署、各職員が貢献するのだという意識を、今一度新たにしていきたいと思えます。

### 2. 環境経営

各部署に対する調査と結果の集約、情報発信は予定どおり実施されました。F-e ニュースでは数値実績や監査後アンケートなどが掲載され、F-e に関する情報のフィードバックに留意されています。環境協働報告の調査結果も、協働の種類や取り組みテーマごとに整理され、全体の状況が分かりやすく示されています。

### 3. 環境協働

環境に関わる情報の公開、市民編集員によるかんきょう通信の発行は予定どおり実施されました。広報でも F-e の具体的取り組みが分かりやすく紹介されており、読み物として楽しめる記事になっています。

環境経営および環境協働の目標は、仕組みが整備され毎年確実に実行されています。今後は「実施する」ことを目的とするのではなく、より効果的で質の高い実施が促されるような目標を設定されると良いのではないのでしょうか。

### 4. 今後に向けた提言

#### (1) 目標管理について

数値目標の達成に向けた実績値の把握・分析に関して、昨年度に引き続き次の2点を提言します。

#### ① 定常状態の把握

各部署で目標を達成できなかった理由として「施設の利用者が増えたため」「業務が増加したため」との報告が上げられていますが、その前段として例年通りの稼働・業務量であった場合の環境負荷量は把握されているのでしょうか。例えば「例年より利用者は10%増加したが、エネルギー使用量は5%の増加にとどまった」と具体的に示されれば、環境負荷を低減しながら市民サービスを向上させたとして高く評価することができます。これまで年に4回の環境負荷調査が行われてきましたが、3か月ごとに数字を報告して終わるのではなく、1月ごとに前年との比較を行い稼働・業務量との関係を考えてみるなど、部署ごとに数値のチェックと分析の習慣を根づかせていただきたいと思えます。

## ②新規設備の評価

平成 29 年度にはもくせい会館と防災食育センターが供用を開始し、このことが結果に大きく影響しました。特に防災食育センターは市内で最もエネルギー使用量が大きい施設です。当初見込んでいたエネルギー使用量や廃棄物発生量と実際の結果にどれほどの乖離があるのか、その要因は何かをしっかりと把握・分析してください。

### (2) 平成 30 年度目標について

F-e は第 3 次福生市地球温暖化対策実行計画（以下、実行計画）の目標達成を目的として運用しているものであり、この計画の目標はハード対策を十分に行うことで実現すべき数字です。ハード対策の具体的手法について各部署での検討を進めていただくよう、これまでの監査報告書でも求めてきたところですが、平成 32 年度に個別施設計画を策定する予定であり、ハード対策についてもこの計画において明らかにされるとのことです。したがって、実行計画の目標年次までにハード対策が完了できる見通しが立たないのが現状です。

平成 30 年度以降の目標は、実行計画に掲げた目標をベースに各部署の事情を勘案して設定することとし、上記①②の提言を実行することでハード対策により削減すべきエネルギー量とその方策を明らかにし、個別施設計画に反映されることを求めます。